

● 雪だるまアックスとの雪合戦の続き
● アックスは自分の体の雪を使つて、連続でぼく
● に雪玉をぶつけてくる。
● ぼくは、木のかげにかくれてあることをずっと
● まっていた。
● そう、アックスの体の雪が完全になくなるその
● 時を。
● 一〇分後、ぼくの予想通り、アックスはみるみ
● る小さくなっていき、ぼくのこしより小さくな
● った所で雪を投げるのをやめた。
● 「さあ、今度はぼくの番だね。」
● ぼくは、雪玉を作り、アックスに向かって投げ
● た。
● しかし、小さくなったアックスはその分速くな
● り、ぼくの雪玉は全く当たる気がしなかった。
● しかも、こしやくなことに、軽くなったアック
● スは自分で雪玉をにぎりぼくに投げてくるので
● あった。
● このままでは勝てない。ぼくは、くやしくて、
● かくれていた木を思い切り切った。
● すると「ドササササ」と木の上から雪が大量
● に落ちてきて、アックスは倒れた。
● そこにぼくの雪玉を3つ当ててぼくは勝った。
● 「さあ、約束通り宿題をやってもらおう」
● ぼくは、アックスを部屋に連れて行き、宿題を
● やってもらった。
● 宿題はべちよべちよになり、ぼくはしかられた

問 い 1 木にかくれてぼくがずっと待っていたことと
は アックスの（ ） が完全になくな
ること

問 い 2 どうしてぼくは最後にしかられたのだろうか